

ボランティア活動に取り組む、
輝いてる人をご紹介します！

ボラットさん みつけた！

千葉 遥菜 さん

学生団体「Tsunagu」代表

～「Tsunagu」で つながるマチとヒト～

2014年3月、小さな冊子が発行になった。「HAKODATEの素敵なおCAFÉを紹介するmagazine～Tsunagu～」。函館のカフェを紹介するフリーペーパーだ。

発行しているのは、学生団体「Tsunagu」。代表を務めるのは、北海道教育大学函館校4年の千葉遥菜さん。「函館の素敵なおカフェをたくさんの人に紹介する、そんな雑誌が作りたい。」という遥菜さんの想いに賛同し集まった活動メンバーは現在7人。「カフェが好き」「雑誌が好き」「編集に興味があった」「千葉さんの面白さに惹かれた」など、それぞれのきっかけはさまざまだけれど、「函館に来てよかった。函館が好き。」という想いは全員共通。岩手や札幌など別の土地から函館へ進学してきたメンバーたち。だからこそマチの魅力がより新鮮に映っているのかもしれない。

今まで何気なく立ち寄っていた「カフェ」。そこで「取材」という形を通して店主と話すことは新しい発見ばかり。その店の歴史、こだわり、想い。色々なことが見えてくる。そして、ますますその魅力に惹きこまれる。「取材を通して感じたことをたくさんの人に伝えたい。店主の想いを読者につなぐ、そんな雑誌になればいい。」と千葉さん。

活動を初めてから、変わり始めていくこともあるとか。今までとは違った目線で街を見るようになっていたり、いつも読んでいた雑誌もデザインを気にするようになっていたり。企画から取材、執筆、デザインなどなど、ゼロから何かを創り出すことは決して簡単ではないけれど、同じ目標に向かう仲間がいることが大きな力になる。

遥菜さんは岩手県一関市出身。東日本大震災では被害はなかったものの岩手県の現状を目の当たりにし心を痛めている。「いつか地元でカフェを開き、少しでも地元を元気づけることが出来たら。」そんな夢も見えてきた。

— 遥菜さんにとってボランティアとは？ —

「色々なことが勉強できる場所。自分が成長するために必要なもの。」誰かのために何かをしようと始めた活動も、何より自分のためになっていることに気付いた。「誰かのために」という思いが伝わり、自分もみんなも嬉しい気持ちになる。それが理想の形。「こんな雑誌を作ってくれてありがとう！」という声も、次への大きな力に。

雑誌のタイトルでもある「Tsunagu」。全員一致で決まったそう。来年春には卒業して行く千葉さん。「そのあとずっとつないで行ってほしい。」ヒトとヒトをつなぐマチの「カフェ」、その「カフェ」をまたヒトへとつないで行く、そんな雑誌を目指して。

(文/さとうあやこ)

一口メモ

フリーペーパー「Tsunagu」では現在サポーター大募集中。詳細お問い合わせはtsunagu.hakodate@gmail.comまで。次号発行は秋の予定。お楽しみに！



千葉遥菜さんPROFILE

岩手県一関市出身。

岩手県立千厩高等学校卒業。

現在、北海道教育大学函館校国際文化・協力専攻 国際協力分野4年。

部活動ではセパタクロー部所属。(全日本セパタクロー学生大会では第3位の快挙)

2013年11月 学生団体「Tsunagu」設立。

代表を務める。

フリーペーパー「Tsunagu」は、年二回(春・秋)発行。

北海道教育大学函館校・未来大学・市内各店で設置。